

(1) 谷地区

	<p>Q：現在、学校の在り方などの方針が検討されているが、現在生徒が通っている学校の新たな活用方法も考えてほしい。子どもが少なくなると学校の教室が空くので、そこに公民館や、拠点として地域住民が入っていくような形ができれば、社会教育も含めた新しい教育ができるのではないか。</p> <p>A：各地の事例を参考にしながら検討する。</p>
	<p>Q：自治会輸送を利用した際の料金支払方法が変更になった。そのため、処理が複雑になり、運転手の負担も増えています。もう少し楽な方法を一緒に考えてほしい。</p> <p>A：制度改正も含めて要望すべきものは要望しないといけない。今の自治会輸送活動（有償）を、別の方法に切り替えられる可能性もある。利用者は減っているものの、診療所や買い物などでの需要はあるし、高齢化が進む中では必要な移動手段。町も一緒になって、この仕組みが守られるよう考えたい。</p>
	<p>Q：飯南町は介護でも医療連携が進み、他市町村と比べても充実している。また、子どもが生まれた時に、2人目までは10万円、3人目が生まれたら50万円の御祝金があるのもいいところ。いいところがたくさんあるのに、知らない人も多い。もう少しアピールしてもいいのでは。</p> <p>A：ホームページや広報誌、SNSなどで情報発信をしているが、十分に伝えきれていないのも事実。きめ細かく、丁寧に情報発信をしていきたい。</p>
	<p>Q：谷地区には役場支所がなく、住民票や印鑑証明の発行などの手続きが大変。郵便局で住民票や印鑑証明などが発行できると便利ではないか。また、診療所が2週間に1日しか開かないため、インターネット診療の窓口として郵便局があってもいいかも。</p> <p>A：郵便局で証明が発行できるサービスを具体的に検討する。インターネット診療は今後の研究課題としたい。</p>

(2) 頓原地区

	<p>Q：明るい未来の話だけをしていると、「全然違う方向に進んでしまうんじゃないか」と心配になる。話をするにしても、飯南町のこれまでと今の状況をしっかりと把握してから話し合う必要がある。暗い未来にならないために、自分たちにできることをしたい。</p> <p>A：現在の人口は 4,500 人弱。子育て支援で補助金や助成などを行っているが、出生数が非常に少なくなっているのが現実。やはり、若い方にとって飯南町が魅力ある町で、確かな産業があって、働きたいところもある、「飯南町に帰ってきて生活したい」と思ってもらえる環境をしっかりと作っていく必要がある。</p>
	<p>Q：10 年先の未来を考えるのはすごく大切。しかし、10 年前にもこのような企画があったはず。だから、10 年前の資料がどうなっていたのかを確認した上で、今後を検討できたらよかった。今回は町民の参加が少なく、これが地域住民の意見だという形でまとまるのは心苦しい。町民の日々のリアルな声をどう拾い上げていくのかも今後の課題。</p> <p>A：10 年前の総合振興計画の策定時には、若い方から 70 代後半の方までの幅広い世代の方と、検討委員会の中で喧々諤々と話し合った。やはり、「人」が大切だということで、一番の柱を「自治・協働」とし、人づくり（人材育成）をしっかりとやっていこうと決まった。本日の資料の中の「若い世代の移住拡大に向けて取り組むこと」では、就労支援が「61.9%」。やはり「魅力ある仕事を飯南町につくる」「飯南町から通える範囲に勤務地がある」ということが、飯南町に住み続けるためには大切。この課題解決策を、今回の計画に盛り込みたい。</p>
	<p>Q：日本の食糧自給率は 38%。これからは、気候変動や紛争で食料が輸入できない可能性もある。食糧自給率が約 50%のスイスでは、「食料の安全保障」という位置付けで、税金で農家の所得を上げるなどの対策もしている。もちろん農家には義務もある。将来、国民が飢えないようにする農業という意味でも、国全体で仕組みを作ることが大事なのではないか。</p> <p>A：飯南町は人口が少なく米の生産が多いので、食料自給率が 300%近く。しかし、全ての品目がバランスよくあるわけではない。考え方を変えると、まだまだ受け入れられる土地や環境があったり、優しい人もたくさんいたりする。飯南町に来てもらえるような戦略を一緒に考えていきたい。</p>
	<p>Q：皆さん考えるのは好きなのですが、それを行動に移そうと思った時に、どうしても一歩が出ないところも多い。飯南町には、いろいろな活動をしている人がたくさんいるので、その手を借りながら、協力をしながら、なんとか楽しんで生活ができればいいなど。</p> <p>A：今いる人で、知恵を出しながら、楽しいことができるよう考えていきたい。そのためにも、職場や家庭以外で、気軽に集まって語り合える場づくりが必要。</p>

(3) 来島地区

	<p>Q：延長学童が困難な理由を教えてほしい。現在は核家族化が進み、共働きの世帯も多い。地域の実情に合った対策が必要ではないか。</p> <p>A：お子さんをみる人材が不足していることが一番の理由。実情に合った対策のため、しっかり盛り込みたい。</p>
	<p>Q：これだけの高校生が参加しているのに、地域住民の大人の出席が少ないのが少し残念。今回に限らず、情報発信が飯南町の課題。また今後、各会場の内容の集約方法と周知方法を聞きたい。</p> <p>A：チラシやホームページ、SNSなどで発信しているものの、なかなか参加者が増えない。興味がないのか、参加しにくいのか、ワークショップが負担という場合もある。この町は今、いろいろな課題が多くあり、住民の皆さんも一緒になって考えてもらわなければならない。さまざまな会に参加してもらえるように、情報発信も含めて、しっかりと取り組んでいく。飯南ミライばなしは、5地区で1回ずつ開催。各回で出たキーワードなどを拾いながら、新しい総合振興計画に盛り込んでいく。策定までの経過は、ホームページなどで共有する予定。</p>
	<p>Q：今後、町内の生徒・児童がどんどん減少していくと考えられ、今の小中学校の統廃合などの問題が出てくると思う。それぞれの学校に特色があるし、今後、親子連れやIターン・Uターンを呼び込むためには、特色ある教育施設は残した方がいいのでは。</p> <p>A：小中学校の在り方は、検討の真っ最中。現時点で「小学校は残し、中学校を一つに」という案が出ているが結論はまだ。教育だけ、学校だけで考えるのではなく、定住、人口減少対策など地域課題とセットで考える必要がある。</p> <p>Q：今、飯南高校では町外生徒の割合が増えている。割合を今より増やすのであれば、どこを目指すのか、どのような学校・環境にしたいのか。割合を維持するのであれば、どのように学校の魅力化を進めていくのか、どのような飯南高校の良さを伸ばしていくのか。</p> <p>A：4割が町内出身の生徒、6割が町外・県外出身の生徒という状況。そこで生まれているのが「多様性」。生徒一人一人が今までにない発想や考え方に出会えている。小学生は「地域」で、中学生は「学校」で、高校生は「多様な個性」の中で成長してほしい。ソフト面の整備に加え、ハード面の整備も進め、飯南高校の魅力を高めていきたい。</p>
	<p>Q：町長が「飯南町にあったらいいな」と思うお店や企業はあるか。</p> <p>A：近隣市町村にはあるが、少し小さな「コストコ」があってもいいかもしれない。</p>

	<p>Q：飯南高校には、生命地域学や生命地域ラボ、ホストファミリー制度などがあり、自然や伝統行事、地域の人と関わる中で、県外にはない魅力に気付けた。地域住民との深い交流こそが魅力で、農家民泊などは地域にお金も落ちる。町が主導で「民泊（体験を伴った宿泊）」を進めてほしい。</p> <p>A：以前、観光協会でも「民泊」を広めようとしていたが、あまり進んでいないのが現状。せっかくの提案なので、持ち帰り検討したい。</p>
	<p>Q：今後 10 年かけて伸ばしていきたい産業があるか。</p> <p>A：合意形成はまだだが、私（町長）としては「林業」を成長産業にしていきたい。山をお金にするためには、さまざまな施設も必要。木を集める土場、木を加工する製材所、木をエネルギーにするバイオマス発電所など。飯南町には、これほどの山林があるので、資源を活かしたまちづくりができればいい。</p>

(4) 赤名地区

	<p>Q：赤名の医療体制が不安。飯南病院か三次中央病院、もしくは出雲まで出る人もいる。介護人材の不足に対して不安の声も多い。やはり、医療・福祉・交通の3点が重要な課題。</p> <p>A：医療体制に不安があるのは重々承知している。今はバスで来島診療所や飯南病院に行ってもらうしかない。デマンドバスの地域外運用も課題。最寄りの医療機関である来島診療所へ直接行くデマンドバスは、早急に改善したい。介護の分野に関わらず、人材が不足し、至るところで影響を及ぼしている。今、飯南町では外国人を受け入れることで何とか維持ができてきている状態。課題解決に向けて行政もしっかりと取り組んでいきたい。</p>
	<p>Q：教育をするのは先生がベース。長距離通勤や残業で疲れていても、子どもたちに疲れた顔を見せられない。心の中では、悶々としている。あまりにも先生たちに頼りすぎじゃないか。先生たちが健全に健やかで元気な状態で教えられるまちづくりや教育をしてほしい。</p> <p>A：通勤時間の問題などは、今後の働き方改革で改善される。部活動の指導方法なども変わりつつある。島根県教育委員会ときちんと連携しながら対応したい。</p> <p>Q：町営の葬祭会館を作ってほしい。今の時代、そんなに大きな葬式はいらない。でも小さな葬式を自治会館でするのは難しい。正直、自治会単位で葬式をするのは少し疲れる。できれば外注したい。</p> <p>A：町営で運営するのか、民間で運営するのかということも論点。民間で運営できるのであれば一番いいが、町の優先事項となればもちろん検討する。いろいろな仕組みを少しずつ変えていかなければならない時期に来た。</p>
	<p>Q：飯南町に住みたいのに、住宅が埋まっていたり、土地はあるが誰のものか分からなかったり、更地ではないから家が建てられなかったりする人たちがいる。町が土地を買うなり、空き家を解体して更地にして分譲するなど、土地をどうにかすれば、もっと住むところも増え、人口も増え、定住にもつながるのではないか。</p> <p>A：空き家は確かに増えている。空き家を負の財産ではなく、プラスに捉え、改修後にしっかりと使っていくことが大切。これまでは、空き家バンクに登録後に、町で斡旋したり、改修したりしていたが、土地の活用などは検討したい。</p>
	<p>Q：赤名の中心部には、街灯や防犯灯が十分すぎるほどある。来年度見直しの予定があるのであれば、どこに街灯が設置されているのかもきちんと確認してから見直してほしい。</p> <p>A：防犯灯は、令和5年度から令和6年度にかけて4箇所（頓原・志々・赤名・来島）の連担地で全てLED化を予定。特に老朽化している頓原・志々地区を先</p>

行着手。次年度に赤名、来島を全てやり替える。これまでは飯南町商工会の管理だったが、LED化にあたり、町の防犯灯に全て切り替え。防犯灯の総数を増やさないが、場所の移動は検討可能。具体的に設置箇所などがあれば相談してほしい。

Q：リサイクル・リユースやCO₂の問題など、環境問題は喫緊の課題。環境問題を考える勉強会があってもいいのでは。

A：令和5年3月に「脱炭素のまち宣言」をした。今後、町民の皆さんと想いを共有し、カーボンニュートラルに取り組んでいくため、現在計画を立てている。2月27日（火曜日）に住民向けの研修会を開催する予定。脱炭素に向けて、住民の皆さんと一緒に進めていきたい。

Q：飯南町では、中高生が国道54号付近を清掃したり、自治会単位でのゴミ拾いが年1回あたり素晴らしい。自治会単位でのゴミ拾いは、年2回やってもいい。

A：町内一斉でのゴミ拾いは、4月の第1週の日曜日に実施。これからも続けていきたい。開催回数は検討したい。

Q：とにかく人口減少時代で、働き手が少ないということだが、元気な高齢者がもう少し働く機会があればいいなど。8時間じゃなくても、1日30分でも1時間でもいいから。いろいろな方法での人材の活用を検討してほしい。

A：生涯現役で働ける間は、フルタイムでなくても、限られた時間だけでも、隙間を埋めるような形で働ける仕組みができるといい。それには、多くの調整が必要なので、今後検討していきたい。

(5) 志々地区

	<p>Q：町内外、出身を問わず、飯南町に住んでいる若者（10～30代）に対して、思っていること、具体的な取組、やりたいことがあるか。</p> <p>A：飯南町は、子どもをもっと増やさないといけない。少子化対策では、出会い・結婚・出産・子育てなどのプロセスがありますが、結婚のための婚活支援や出会いの場づくりなどを実施している。また、若者や女性のチャレンジを応援するための補助金制度も創出している。「若い方にまちづくりに関わってもらいたい」という思いはありますが、一方で、若い方は忙しい。高校生も、在学時はいろいろな思いがあり、アイデアを出してくれるが、社会人になるとなかなか難しい。若い方に参画してもらおう仕掛けづくりをしていく必要がある。</p>
	<p>Q：県外の定住相談会に来られた方のうち、どのくらい定住に繋がっているか教えてほしい。また、定住相談会に地域の方たちや若い人たち、1ターン者たちも一緒に行ってもらい宣伝するのがいいと思うが。</p> <p>A：令和5年度から定住相談会が再開。飯南町は東京・大阪で出店。61人組中2組が移住。行政職員以外の方による宣伝も過去数回実施している。</p>
	<p>Q：志々地区は、金曜日に出張診療所が開くが、出張診療所に行くためのデマンドバスがない。出張診療所までの移動手段があればいい。</p> <p>A：公共交通全体の見直しも含めて検討したい。</p>